

繊維ろ過・スレッド式による新しいろ過システム

ハイブリッド型ろ過システム

システム全体が省スペースで
浄水場の更新に最適です。
沈澱処理水を直接ろ過出来ます。

- ▶ 表流水、ダム水、地下水、湧水などをろ過出来ます。地震や土木工事などにより地下水でも濁度が上昇しています。
- ▶ システム全体が小型なので設置場所を選びません。現在のシステムを運用しながら浄水場を更新出来ます。
- ▶ 低価格、低メンテナンス費、省エネ、耐震性、安全性、高能率小型、簡単な維持管理、高流束、高回収率などが特徴です。



繊維ろ過

繊維ろ過

原水が高濁度の場合のみ凝集剤を使用。
凝集剤の少量使用により安全性は向上し、
沈澱物は減少します。



スレッド式

スレッド式

微粒子の除去と
クリプトスポリジウム原虫を99.9%以上除去。

ハイブリッド型ろ過システムとは

- 1 繊維ろ過とスレッド式のろ過の特徴を最大限に活かして、一体化したシステムです。(裏面フロー図参照) (注1) (注2) (注3)
- 2 表流水、湖沼水、湧水が対象です。
 1. 通常は、繊維ろ過で除濁し、スレッド式でクリプトを除去し、濁度を2度以下※で配水します。
 2. 原水濁度が高濁度の場合のみ 前処理で凝集剤を使用し※、スレッド式ではクリプトを99.9%除去して配水します。
※ 凝集剤を使用すれば濁度を0.1以下に出来ますが、アルミ系凝集剤のPACは、環境に負荷をかけ、アルツハイマー症との関係が問題視されているので、必要最小限で使用します。
- 3 装置は自動制御で手間がかかりません。メンテナンスに特別な技術は不要です。

注1

水道技術研究センターの「水道用浄水装置」としての認定(浄認第1001号 H18.6.30)を取得しています。実機によるクリプトの除去テスト(H22.3.22)では、除去率99.99%でした。

注2

厚労省の指針には、「ろ過池の出口の濁度は0.1度」と記載されていますが、「ろ過池」とは急速ろ過・緩速ろ過の場合です。ろ過装置(スレッド式や大孔径膜)の場合はクリプトを99.9%以上除去できれば、ろ過後の濁度は2度以下で配水出来ます。PACの安全性が問題視されており、アルミの水質基準は0.2ppm以下です。

注3

厚労省は、毎年開催している全国水道専担者会議の資料に「クリプトを99.9%除去出来るろ過装置であれば、急速ろ過・緩速ろ過・膜ろ過以外のろ過方法でも良い。ただし、「浄水方式の変更届」の提出があれば個別に審査して承認する。」(要旨)と記載されており、スレッド式は既に各地で県の承認を受けています。